
日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

Web 版 Vol. 11 (2019)

嘘を楽しむ

富樫 剛

最近仕事でヤーコブ・ベーメ (Jakob Böhme [Boehme, Behmen], 1575-1624; 実際には「ボァーマ」と聞こえる) の著作に初めてふれた。ドイツの靴職人にして神秘思想家で、異端として攻撃されつつも人気を集め、イギリスでは 1640-50 年代に全作が翻訳されたようである。近年、アリエル・ヘサヨン (Ariel Hessayon) がウィンスタンリー、ランター (「暴言族」) およびクエイカー (「友の会」会員) らとの関連で研究を進めており、『ジェイコブ・ブァーマ入門』(Hessayon, ed. *An Introduction to Jacob Boehme*, 2014) のような本もある。(イギリス英語では「ブァーマ」と聞こえる。)

ミルトンとの関係では、1914 年にすでに『ミルトンとヤーコブ・ベーメ』(M. L. Bailey, *Milton and Jakob Boehme*) なる研究書が出版されている。ボズウェルの『ミルトンの書斎』(J. C. Boswell, *Milton's Library*, 1975) で確認できるように、ミルトンはベーメの書を多数読んでいたらしい。神秘思想にもキリスト教の神秘的側面にも私は一切関心をもたないが、ミルトンが読んでいる、ケンブリッジ大の討論でヘンリー・モアの友人に擁護された (Charles Hotham, *An Introduction to the Teutonick Philosophie*, 1650)、モアにも (批判含みながら) 好意的に評価された、などというベーメは、やはり研究上無視できない。

そんな次第で、以下、ケンブリッジの討論でとりあげられた『神の本質の三原理』(*A Description of the Three Principles of the Divine Essence*, 1648) におけるアダムとイヴの描写を紹介する。アダム両性具有説をとるベーメだが、その議論が予想外に面白い。曰く、アダムのなかの現世的・肉体的要素が男性・青年であり、神が彼に吹きこんだ霊的要素が女性・純潔な処女である。そしてこの両者が対話する。青年——「君はぼくの花嫁、ぼくの楽園、ぼくの花冠。君の楽園のなかにぼくを入れて。……君に気持ちよく愛されたい」。処女——「確かにあなたはわたしの夫、でもあなたはわたしをきれいにしてくれない。真珠のほうがあなたより大事。……わたしの庭に来て。友だちとして仲よくしましょう。……でも真珠はあげない。あなたは闇で、真珠は光と輝きだから……」(108)。

これを見て思うのは、『失樂園』のアダムとイヴの場面にどこか似ているということ、それから、神秘思想と言われるのに「神秘」的でないということ。『失樂園』のアダムとイヴの話と同様、ベーメの議論も物語、楽しめる虚構のように見える。神秘の書というより今の映画、ドラマ、アニメ、マンガに近い。この感覚はどこから来るのだろうか？ 以下、私の考察である。

科学が高度に発達した現代に生きる私たちは、日々すべてのものについて「事実か、虚構か」を問いつつ生きている。そして、無害なものであれば虚構を楽しむ心の余裕をもっている。(最近の社会を見ると、そうでもなさそうだが。) おそらくベーメは今、そんな無害な虚構である。が、17世紀のイギリス、あるいはヨーロッパでは違った。当時の人々は、科学的に正誤を問えない諸議論について「正統か、非正統か」を問い、そして後者を排斥することで共有すべき世界観をつくり、保っていた。神秘という点では正統なキリスト教教義も異端思想も同じはずだが、非正統で異端的な神秘は危険とされた。それが当時のベーメなのであろう。

同時に、彼が少なからぬ好評・支持を集めたことは、彼の異端的な神秘あるいは虚構(?)を楽しめる人、正統・非正統の対立を超える思考・感性をもつ人もいた、ということなのだろう。ミルトンのように。

日本ミルトン協会 第 15 回研究会 報告

関西地方が激しい豪雨に見舞われ、また豪雨に伴う二次災害・交通機関への混乱が予想されたため、7月7日、神戸市外国語大学(UNITY)で予定されていた研究会は中止となりました。

日本ミルトン協会 第 9 回研究大会および 2018 年度総会 報告

日時 2018年12月1日(土) 午後12時45分～午後6時00分

場所 青山学院大学青山キャンパス 2号館236教室

発表

1. 岡田 善明：*Paradise Lost* へのバロック芸術の影響をめぐって
——内面的靈性のバロック的描写による啓発——
2. 渡辺 賢一郎：刻み込まれた古典：ジョン・バスクヴィルの『パラダイス・ロスト』
について
3. 川崎 和基：ミルトンと異端狩人

シンポジウム：ミルトンと神 ——「正しき神の摂理」をめぐって——

オーガナイザー 江藤あさじ

1. 山本 信太郎：イングランド宗教改革と反カトリック
2. 冨樫 剛：*Paradise Lost*の神学——16-17世紀の予定説——
3. 江藤 あさじ：救われないものたちはどこへ辿り着くのか
——*Paradise Lost*における神の創造と Death の行方——

総会議事録

1. 活動報告

笹川事務局長より2017年度の活動について報告があり、了承された。

2. 2017年度会計報告および会計監査報告（金崎八重、江藤あさじ、倉恒澄子）
金崎事務局委員から2017年度会計報告が報告され、江藤・倉恒両会計監査委員により監査の結果報告の通りで間違いなしとされた。総会出席の会員により了承された（8頁参照）。

3. 2018 年度予算審議（金崎八重）

金崎事務局委員から 2018 年度予算が提案され、総会出席の会員により了承された（8 頁参照）。

4. 2019 年度行事予定について

下記の通り提案され、了承された。

第 15 回研究会：7 月 6 日 神戸市外国語大学

第 10 回大会および総会：12 月 7 日 青山学院大学

（出席者 27 名）

日本ミルトン協会会員業績（2018 年度）

新井明 『新井明選集第 1 巻 ミルトン研究』 リトン（2018.9）。

—— 『新井明選集第 2 巻 内村鑑三とその周辺』 経堂聖書会（2019.1）。

岡田善明 「Paradise Lost における自然と原罪——地動説とバロック芸術の影響から——」 『国際文化表現研究』 第 14 号（2018.3） 172-189 頁。

—— 「ミルトンの仮面劇 *A Mask* における自然の力——エピクロスの自然から chastity の自然へ」 東京英米文学研究会『紀要』 第 13 号（2018.12） 15-29 頁。

川島伸博 「“she eat”——藤井治彦先生を思い出しながら——」 *Osaka Literary Review* No. 57（2018） 95-103 頁。

—— 「含伯田、彌耳敦、格朗空——竹越与三郎の招魂レトリック——」 『龍谷紀要』 第 40 巻第 2 号（2019.3） 31-42 頁。

里麻静夫 「『国事詩集』を読む——第 1 巻「文芸」部門に於ける愚人像（1）」 中央大学英米文学会『英語英米文学』 第 59 集（2019.2） 1-31 頁。

野呂有子 「『新井明選集 第 1 巻 ミルトン研究』（書評）『週刊読書人』2019 年 1 月 11 日号。

—— 「解説」 『新井明選集第 1 巻 ミルトン研究』 419-432 頁。

—— 「日本でミルトンを読むということ」（翻訳） 『新井明選集第 1 巻 ミルトン研究』 398-413 頁。

—— 『*Pro Populo Anglicano Defensio Secunda* (1654; 『イングランド国民のための第二
弁護論』) (ラテン語原典テキスト、ブリティッシュ・ライブラリー所蔵トマソン・コレ
クション版とコロンビア版の比較・研究) 『野呂有子の研究ウェブサイト』
(<http://www.milton-noro-lewis.com/digitalbook.html>) (2019.3.27)

Hanada, Taihei. *Samson in Labour: Milton and Early Modern Political Theology*. Reitaku
UP, February 20, 2019.

事務局だより

2018年7月7日

第15回研究会、第23回運営委員会は豪雨とそれに伴う二次災害の影響を鑑み中止。

2018年7月14日—21日

第23回運営委員会（メール審議）

以下、運営委員会議事録より重要箇所を掲載。

1. 2018年度研究会のあつかいについて（報告および審議）
2018年度研究会は中止として、代替の例会は行わないことを決定した。
2. 2018年度研究会中止にともなう2018年度大会研究発表について
2018年度研究会で発表予定であった岡田善明氏と川崎和基氏は、今年度12月の
大会で発表をすることが提案され承認された。
3. 「2017年度会計決算」と「2018年度予算」について
金崎事務局委員より「2017年度会計決算」の報告と「2018年度予算」が提案され承認
された。
4. 会長名義での弔電とお花代の支出について
会長名での弔電とお花代については、会計から支出可能とすることが提案され承認され
た。
5. ホームページ委員の交代について
小林七実ホームページ委員が在外研究中のため、菅野智城氏に交代することが承認され
た。

2018年12月1日

第24回運営委員会（出席者11名）、第9回研究大会

以下、運営委員会議事録より重要箇所を掲載。

報告事項

1. 2017年度決算および2018年度予算について

金崎委員より2017年度決算と2018年度予算の説明がなされ、会計監査も承認されたことが報告された。

審議事項

1. 2019年度活動予定について

- ・2019年度研究会は7月6日（土）に神戸市外国語大学（大学共用施設 UNITY）で開催することを決定した。

- ・2019年度研究大会は12月7日（土）に青山学院大学で開催することを決定した。

※その後、シンポジウムのコーディネーターは渡辺賢一郎氏に決定。渡辺氏より、テーマは「ミルトンと書物」、パネリストは圓月勝博氏と川島伸博氏であることが報告された。

2. 『会報』第11号巻頭言執筆者について

- ・富樫剛氏が担当することを決定した。

3. その他

- ・自然災害により2018年度研究会が急遽中止になったことを鑑み、開催の有無に関わるような事態が起きた場合の手順を次回委員会で提案することとした。今後、同様の事態が発生した場合には、研究会または大会前日までに、ホームページ上で開催の有無を告知することが提案された。

以上

名簿変更

	氏名	〒	住所	電話・メール	所属
変更	金子 千香				松山大学
変更	金崎 八重				近畿大学
変更	甲元 洋子				同志社女子大学 特任教授
変更	小山 薫				同志社女子大学 特任教授
変更	松村 祐香里				金沢学院大学

* WEB 掲載版には住所と電話番号の情報は記載いたしません。

訃報

元本協会会員の原田純先生が2019年1月12日に逝去されました。原田先生は日本ミルトン・センター創立時よりの会員で、1976年から1991年まではMCJの実行委員で、また中部地区委員も兼任されていました。ご業績には、“Toward ‘Paradise Lost’: Temptation and Antichrist in the English Revolution.” *Milton Studies*, vol. 22, 1986, pp. 45–77; “Milton’s Influence in Japan.” *Milton Encyclopedia*, vol. 9, Bucknell UP, 1983, pp. 16–20; 『言論・出版の自由—アレオパジティカ』岩波書店, 2008、『イギリス革命の理念：ミルトン論文集』小学館, 1976、『イングランド宗教改革論』（共訳）未来社, 1976 など、多数ございます。MCJ・MAJへの先生の永きにわたるご尽力に感謝し、心より哀悼の意を表します。

日本ミルトン協会 2017年度会計決算報告 および 2018年度予算案

自2017年4月1日

至2018年3月31日

	摘要	2017年度予算案	2017年度決算	2018年度予算案
収入	会費	200,000	207,000	200,000
	前年度繰越金	2,788,258	2,788,258	2,922,031
	雑収入	0	30	0
	計	2,988,258	2,995,288	3,122,031
支出	会報関係費	70,000	34,529	70,000
	印刷費	0	0	0
	HP管理費	14,000	13,026	14,000
	会場関連費	50,000	14,000	50,000
	若手支援費	30,000	10,000	30,000
	雑費	1,000	1,702	1,000
	次年度繰越	2,823,258	2,922,031	2,957,031
	計	2,988,258	2,995,288	3,122,031

基金会計

ゆうちょ銀行	1,500,000
--------	-----------

上記の通り間違いありません。

2018年12月1日

会計

金崎 八重



会計監査

倉恒 澄子



江藤 あさじ



日本ミルトン協会規約

1. **名称** 本会は、日本ミルトン協会と称する。英語表記は The Milton Association of Japan とする。
2. **目的** 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975年7月18日－2008年3月31日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. **事業** 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 - (1) 研究大会
 - (2) 研究会
 - (3) 広報活動
 - (4) その他
4. **組織** 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. **役員** 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。

会長 1 名	事務局長 1 名
事務局委員 2 名	企画委員 6 名
ホームページ委員 2 名	会計監査委員 2 名
6. **機関**
 - (1) 総会
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
 - (2) 運営委員会
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。

会長	事務局長	事務局委員
企画委員	ホームページ委員	
 - (3) 事務局
事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
 - (4) 企画委員会
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
 - (5) ホームページ委員会
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
 - (6) 顧問をおくことができる。
7. **会計**
 - (1) 会費

会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は 1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

(3) 若手支援

学生会員が研究発表を行う場合、1 万円を上限に自宅あるいは在籍校から会場までの実費交通費を支給する。

8. 規約の改正 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

9. 設立年月日 本会の設立年月日は 2008 年 4 月 1 日とする。

10. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

付則 役員を選出ならびに所在地

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。
- (7) 本会の所在地は次のとおりとする。

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部 笹川渉研究室

郵便局の振替口座 00990—5—306177 の口座代表者は事務局長笹川渉が担当する。

2008 年 4 月 1 日

2015 年 12 月 5 日改正

2012 年 4 月 1 日改正

2017 年 12 月 9 日改正

2014 年 4 月 1 日改正

日本ミルトン協会 役員および委員

(2019年4月1日現在)

顧問 新井 明 聖学院大学

会長 西川健誠 神戸市外国語大学

事務局長 笹川 渉 青山学院大学

事務局委員 金崎八重 近畿大学

川崎和基 日本大学

企画委員 圓月勝博 同志社大学

桂山康司 京都大学

川島伸博 龍谷大学

小山 薫 同志社女子大学

富樫 剛 フェリス女学院大学

水野眞理 京都大学

ホームページ委員 川崎和基 日本大学

菅野智城 鶴岡工業高等専門学校

会計監査委員 江藤あさじ (同志社女子大学)

倉恒澄子 (甲南女子大学)

* () は非常勤講師

日本ミルトン協会 会報
Newsletter of the Milton Association of Japan
第 11 号

2019 年 4 月 1 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学文学部
笹川渉研究室
振替番号 00990—5—306177